

松尾池 (まつおいけ)



諸元

貯水量	1,322 千m ³
満水面積	23.5 ha
受益面積	1,123.5 ha
堤高	18.7 m
堤長	423 m

高松市西植田町にある松尾池は、四箇池と呼ばれるため池群の一つで、春日川の源流である葛谷川を水源としています。

正保4年(1647年)、水不足を解消するため、四箇池掛りに城池が完成し、従来から利用していた神内池と春日川の流水によって水は潤沢になり、藩政も安定しました。それに伴って人口が急増し、新田開発が進んだ結果、またもや大干ばつに見舞われ、水不足を訴えるようになりました。このため、更に新池を築く必要に迫られ、寛文12年(1672年)に築造されたのが松尾池です。しかしながら、その後も年々新田は増加し、干ばつの被害を防ぐには十分ではありませんでした。

戦前には、毎年5月12日に松尾池の土手で池市が開かれ、農機具や植木、鱈を売る露店が並び、数千人の人出がありました。その日は農家の人は農作業を休み「春祝」を行い、農繁期に向けて英気を養っていました。

また、松尾池周辺の丘陵地では茶が栽培されています。この地区の茶の栽培は、県下で最も古く、文久2年(1862年)から始まったとされ、品質が優れた植田の茶として知られています。



松尾池



斜樋